





産・流通者の日本唯一の全国組織として、これらの事業を推進し、協会員皆様の繁栄と社会貢献が同時に実現できますよう、努力してまいります。皆様方のなお

## 戦後の公園はなぜダメになつたか



東京農業大学名誉教授  
進士 五十八

## スピリチュアル(Spiritual)の価値

### 私の経験

皆様方におかれましては、新しい年を迎えて、益々ご清祥のことお慶び申し上げます。

平成二十五年度通常総会が、盛会のうちに終わりました。これも、担当いたしました中部ブロック会員の皆様のおかげです。有難うございました。

昨年七月の豪雨により多くな被害に遭われた会員の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

十二月の衆議院選においては、民主党から自民党に政権交代があり、安倍内閣がデフレ脱却・経済政策に向けた「三本の矢」と呼ぶ政策を行うことが、我々绿化業界にも明るい光が見えます。

われわれ日本植木協会においても、十二月三日より一般社団法人日本植木協会へ當研修・資格委員会は、

公益目的支出計画実施事業の中の緑化関係人材育成事業として、環境绿化樹木識別検定・植生アドバイザー育成事業を担当致します。環境绿化樹木識別検定においては、昨年同様、会場を東京都及び愛知県の二ヶ所に

おいて識別講習会と検定試験を行います。また、绿化推進活動強化・普及事業とブロック研修会の助成、名

最後に、会員の皆様方の御協力と御支援を心よりお願い申し上げます。

【経歴】

昭和三十一年六月二十四日生まれ

埼玉県出身

東京農業大学農学部造園学科卒業

工管理二級

【主たる資格】

造園施工管理一級、土木施

工管理二級

【★二月一日からの職員の主

な業務分掌は下表のとおり

木の認定、造園CPD制度の推進、講師の派遣等、お

りました川俣稔(かわま

よび、アボック・カルタ賞

の授与を担当させて頂きま

す。

特に緑化関係人材育成事

業については、会員皆様の

みなぎる一般の方も多く参

加して頂きたいと思ってお

ります。

【経歴】

昭和三十一年六月二十四日生まれ

埼玉県出身

東京農業大学農学部造園学科卒業

工管理二級

【主たる資格】

造園施工管理一級、土木施

工管理二級

【★二月一日からの職員の主

な業務分掌は下表のとおり

日本植木協会の皆様の事業

拡大と発展のお役に立つよ

う努力し、貢献して行きた

いと思います。今後とも宜

しくお願い申しあげます。

【経歴】

昭和三十一年六月二十四日生まれ

埼玉県出身

東京農業大学農学部造園学科卒業

工管理二級

【主たる資格】

造園施工管理一級、土木施

工管理二級

【★二月一日からの職員の主

な業務分掌は下表のとおり

日本植木協会の皆様の事業

拡大と発展のお役に立つよ

う努力し、貢献して行きた

いと思います。今後とも宜

しくお願い申しあげます。

【経歴】

昭和三十一年六月二十四日生まれ

埼玉県出身

東京農業大学農学部造園学科卒業

工管理二級

【主たる資格】

造園施工管理一級、土木施

工管理二級

【★二月一日からの職員の主

な業務分掌は下表のとおり

日本植木協会の皆様の事業

拡大と発展のお役に立つよ

う努力し、貢献して行きた

いと思います。今後とも宜

しくお願い申しあげます。

【経歴】

昭和三十一年六月二十四日生まれ

埼玉県出身

東京農業大学農学部造園学科卒業

工管理二級

【主たる資格】

造園施工管理一級、土木施

工管理二級

【★二月一日からの職員の主

な業務分掌は下表のとおり

日本植木協会の皆様の事業

拡大と発展のお役に立つよ

う努力し、貢献して行きた

いと思います。今後とも宜

しくお願い申しあげます。

【経歴】

昭和三十一年六月二十四日生まれ

埼玉県出身

東京農業大学農学部造園学科卒業

工管理二級

【主たる資格】

造園施工管理一級、土木施

工管理二級

【★二月一日からの職員の主

な業務分掌は下表のとおり

日本植木協会の皆様の事業

拡大と発展のお役に立つよ

う努力し、貢献して行きた

いと思います。今後とも宜

しくお願い申しあげます。

【経歴】

昭和三十一年六月二十四日生まれ

埼玉県出身

東京農業大学農学部造園学科卒業

工管理二級

【主たる資格】

造園施工管理一級、土木施

工管理二級

【★二月一日からの職員の主

な業務分掌は下表のとおり

日本植木協会の皆様の事業

拡大と発展のお役に立つよ

う努力し、貢献して行きた

いと思います。今後とも宜

しくお願い申しあげます。

【経歴】

昭和三十一年六月二十四日生まれ

埼玉県出身

東京農業大学農学部造園学科卒業

工管理二級

【主たる資格】

造園施工管理一級、土木施

工管理二級

【★二月一日からの職員の主

な業務分掌は下表のとおり

日本植木協会の皆様の事業

拡大と発展のお役に立つよ

う努力し、貢献して行きた

いと思います。今後とも宜

しくお願い申しあげます。

【経歴】

昭和三十一年六月二十四日生まれ

埼玉県出身

東京農業大学農学部造園学科卒業

工管理二級

【主たる資格】

造園施工管理一級、土木施

工管理二級

【★二月一日からの職員の主

な業務分掌は下表のとおり

日本植木協会の皆様の事業

拡大と発展のお役に立つよ

う努力し、貢献して行きた

いと思います。今後とも宜

しくお願い申しあげます。

【経歴】

昭和三十一年六月二十四日生まれ

埼玉県出身

東京農業大学農学部造園学科卒業

工管理二級

【主たる資格】

造園施工管理一級、土木施

工管理二級

【★二月一日からの職員の主

な業務分掌は下表のとおり

日本植木協会の皆様の事業

拡大と発展のお役に立つよ

う努力し、貢献して行きた

いと思います。今後とも宜

しくお願い申しあげます。

【経歴】

昭和三十一年六月二十四日生まれ

埼玉県出身

東京農業大学農学部造園学科卒業

工管理二級

【主たる資格】

造園施工管理一級、土木施

工管理二級

【★二月一日からの職員の主

な業務分掌は下表のとおり

日本植木協会の皆様の事業

拡大と発展のお役に立つよ





黒田 部会長挨拶

## コンテナ部会

平成二十五年度  
通常総会

## 開催

一般社団法人 日本植木協会  
コンテナ部会 平成25年度 通常総会

黒田 部会長挨拶

コンテナ部会 平成二十五年度 通常総会を開催した。中村副部会長の開会宣言後、同副部会長より開始。黒田部会長から「コンテナ部会の開会宣言後、会から生まれた植生調査セミナーは協会事業にまで育ちました。二十四年度は国際研修会や勉強会を開催し、好評の評価をいただき、またが今年も幅広く活動していきます。生産流通の全国組織として、協会とよく連携し、成果の実を結ぶ年としたいので、ご協力をよろしくお願い申し上げ、また皆様のご多幸を祈念いたします」との挨拶があった。

加藤三久担当理事は、「当理事としてこの一年間コンテナ部会の活動に参加して、本協会の看板に成り得るような、内容のある各委員会で認識しました。本協会とコンテナ部会の双方に

は一月二十六日(土)九時より愛知県名古屋市熱田区サイプレスガーデンホテルにて平成二十五年度通常総会を開催した。

黒田 部会長挨拶

報告 事業報告は各委員長がプロジェクトで画像を写して報告し、決算報告は事務局が報告した。監査報告は畠山富夫監事が

2) 第二号議案 四年度事業報告 平成二十

1) 第一号議案 四年度決算報告及び監査 平成二十

3) 第三号議案 五年度事業計画(案) 平成二十

4) 第四号議案 五年度収支予算(案) 平成二十

計画を各委員長が、予算案を事務局が報告し第三号議案、第四号議案の一括承認について採決を諮ったところ、賛成多数により承認された。

その他の会則・規程の(社)日本植木協会を(一社)日本植木協会と改めたところ、賛成多数により承認された。

ウインの原種と品種の関係を

答があり、十

終了した。そ

の後、質疑応

答があり、十



私たちこう考える これからの日本植木協会

# 歴史を大きな尺度で見直して科学的な「植木の思想」を

文明科学研究所 所長 大橋 力氏



**大橋力氏プロフィール**  
1933年栃木県生まれ。東北大学農学部卒業、農学博士。文部省放送教育開発センター教授、千葉工業大学教授、ATR 感性脳機能特別研究室長等を経て現職。情報環境学を体系化。ハイパーソニック・エフェクトを発見。脳科学、人工生命、芸術学などを結ぶ超領域性の生命文明科学を構築している。音楽家・山城祥二として芸能山城組を主宰、アニメ映画『AKIRA』サウンドトラックの作曲など。現在、文明科学研究所所長、国際科学振興財団主席研究員。

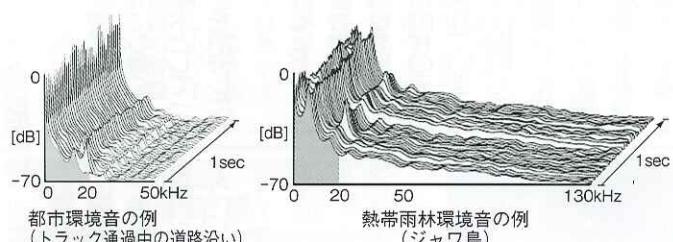


図1 热帯雨林と都市の環境音

都市屋外環境音の周波数分布は低周波側に偏り、スペクトルの構造がかなり単純であるうえ時間的な変化も乏しい。熱帯雨林環境音の周波数分布は高周波側に拡がり、しばしば100 kHzを超えるミクロな時間領域でのスペクトルの変化は全周波数帯域にわたって著しい。

出典: 大橋力、「音と文明—音の環境学ことはじめ」、岩波書店(2003)

生き物は様々な感覚を駆使して周囲のかしがきかないのが聴覚です。例えば視覚は、まぶたを閉じれば見えなくなる。しかし耳にまぶたはありませんから、聴覚ではそういうことはできません。

考えてみれば、それは当然です。夜の暗闇では何も見えないし、眠っているときは目を閉じますから、そういう時には視覚には頼れません。では嗅覚はどうかといふと、臭いの空気中の伝達速度は違ないので間に合わない。気がついた時には肉食動物の胃の中だった、なんごとにいるのが聴覚なのです。空気の振動からその周囲の環境を的確にモニターをしていなければなりません。四六時中、常に私たちの環境情報を得るために、非常に複雑な情報分析が必要になります。そのため、脳の進化は聴覚の発達によってもたらされたとも考えられています。少し前までは、現生人類はアフリカ大地溝帯東側のサバンナで誕生したと考えられています。しかし近年では、そうではなく大地溝帯西側の熱帯雨林で誕生したといふ考え方方が主流になっています。人類の脳が現在のように進化したのは、熱帯雨林の非常に複雑な音環境による可能性が高いのです。

環境をモニターしていますが、最もできないのが聴覚です。例えば視覚には、まぶたを閉じれば見えなくなる。しかし耳にまぶたはありませんから、聴覚では何も見えないし、眠っているときは目を閉じますから、そういう時には視覚には頼れません。では嗅覚はどうかといふと、臭いの空気中の伝達速度は違ないので間に合わない。気がついた時には

環境をモニターしていますが、最もできないのが聴覚です。例えば視覚には、まぶたを閉じれば見えなくなる。しかし耳にまぶたはありませんから、聴覚では何も見えないし、眠っているときは目を閉じますから、そういう時には視覚には頼れません。では嗅覚はどうかといふと、臭いの空気中の伝達速度は違ないので間に合わない。気がついた時には

生き物は複雑な音環境をもつ  
熱帯雨林で進化した

人間に森の「聴こえない音」  
がある環境が適合している

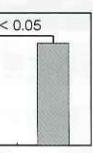


図2 市街地環境音に熱帯雨林由来のハイパーソニック・サウンドを付加する生理的效果

超高密度高複雑性の熱帯雨林環境音を市街地環境音に付加すると、市街地環境音だけのときと較べて、基幹脳活性と相関する脳波α波成分が統計的に有意に増大する。

出典: 仁科エミ、大橋力、日本都市計画学会都市計画論文集、42-3 (2007)

## 音環境を考えた 新しい科学的知見と 緑地づくりには センスが必要

環境から見れば、私たちは情報的な栄養失調状態にあり、そのことが人間の心身の健康に良いはずがありません。

## トリックな社会と 植物との相性は 良いはず

みたい魅力的かつ切実なテーマのひとつだと思っています。

熱帯雨林の超高周波が何によってもたらされているのかは、まだ明確には分かれていません。しかし、植物が風に吹かれて出す音や、昆虫の声や羽音などが大きくなっています。都市環境において、時として100 kHzを超える場合もあります(図1右)。このような高複雑性の超高周波を含む音を「ハイパーソニック・サウンド」と呼びます。

私たちが行った実験では、熱帯雨林のハイパーソニック・サウンドを含む音を聴くことによって、基幹脳(脳の深部にあって脳機能全体を扇のカナメのようにまとめる基幹的な調節機能を担う領域)の活性と相関する脳波α波成分の増加(図2)、がんの一次防御などに機能する血液中のNK細胞活性の向上や、ストレスホルモンであるアドレナリン濃度の低下などの反応が統計的に見出されました。知覚できなくてもポジティブな生理的効果をもつ環境情報が確かにあるわけです。また、可聴域と超高周波をともにイヤホンで聴いても効果は出ないのに、可聴域をイヤホンで聴きながら高周波が体

かといって、植木や植栽をたくさん植えるだけで超高周波の効果を出せるかと云ふ。そのため、何百、何千といふ種類の生き物が共生しているからこそ、そのような環境音になっていると考えられます。

かといって、植木や植栽をたくさん植えるだけでも、それを取り田の水管理は、部分の最適解と全体の最適解とを一致させる「利他性」がないと対立を好まず自然の摂理を褒びながら人から生まれた樂器、ということです。棚田の水管理は、部分の最適解と全体の最適解とを一致させる「利他性」がないと成立しません。我田引水ではダメです。

一方で、京都の坪庭や盆栽・鉢植えのよに植物をなるべく身近に置こうとする「ほこれまでありました。しかし、植物との関係などによって簡素な方向に茶道との関係などによって複雑な方向に進化してきた芸術でもあります。これを「健康」と結びつけて本格的に検討する切り口はこれまでませんでした。しかし、それがこれまでの樂器は、私の知る限り日本の尺八と琵琶です。これらに共通するのは稻とわらけ棚田をつくる文化から生まれた樂器、ということです。棚田の水管理は、部分の最適解と全体の最適解とを一致させる「利他性」がないと対立を好まず自然の摂理を褒びながら人間も幸せに生きていくための知恵や哲学が、棚田文化の中で育まれてきたのであります。これは、自然と対抗的な方向性をもつ畠作・麦作文化圏と大きく異なります。

日本人が培ってきた植木とそれを取り巻く文化を、五十年や百年の尺度ではなく人類史的尺度で見直すとともに、新しい科学的な知見を導入することによって、これまでにない科学的で深いものがあります。日本人の伝統的な感覚は、遺伝子の声を反映しているものではないかと思いま

## 三本の柱

1. 生産の充実
2. 流通の強化
3. 造園設計、施工の拡大



に大きな期待が寄せられています。エコセントリックな生き方に關して日本人はセントリックな生き方に関する主張を張り、それを單なる主義主張として述べるのではなく、精密な実験データによって証明していくことを考えています。

さまざまな活動も実はそういう問題意識が背景にありますから、私が取り組んでいる

